10代をひとりにしない　　ディーピー

認定NPO法人 D×P

孤立・困窮する
若者支援の現場より

自己紹介

今井 紀明 (Imai Noriaki)

認定NPO法人D×P 理事長
株式会社SOLIO 代表取締役
佐賀女子短期大学客員教授
NewsPicks プロピッカー

北海道 札幌市出身
2児の娘のステップファザー

Twitter

Facebook

D×Pが取り組む社会課題とは？

ユース世代の孤立

不登校・中退・家庭内不和・経済的困難
いじめ・虐待・進路未定・無業などによって、
いくつかの安心できる場や
所属先を失ったときに起こります。

特に日本では若年層に対する予算を割くことが難しく、対応が後手になりやすい分野です。

日本の若者を取り巻く最新データ

不登校の小中高生が 41万5,252人 ※1
2023年度の不登校の小中高生の人数は**2013年度より2.4倍(23万9,980人)増加し、過去最多**

児童虐待相談件数が 21万4,843件 ※2
2022年度の児童虐待相談対応件数は**過去最多**

小中高生の自死者数が 527人 ※3
2023年の小中高生の自死者数は**過去最多**
国際的にみても、10～19歳の死因で自死が最も多いのは先進国 (G7)で日本だけ

※1 文部科学省 令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より
※2 こども家庭庁 令和4年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数より
※3 厚生労働省 警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等(令和7年1月29日)より

事業の全体像　-若者の孤立を解決するための方法-

セーフティネット事業

ユキサキチャット
若者の一歩をサポートするLINE相談

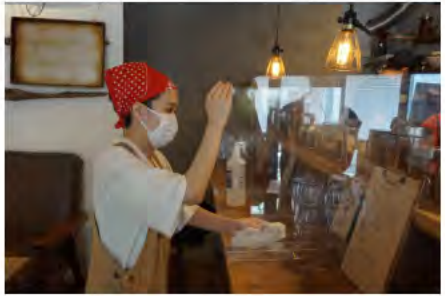
食糧支援と現金給付
厳しい状況の若者の生活を支える

大阪ミナミのユースセンター
繁華街(グリ下)で過ごす若者が安心して過ごせる居場所

機会創出事業

パソコン給付プロジェクト
パソコンで将来の選択肢をひろげる

ワールドチャレンジ
世界を見る経験を届けるプロジェクト



仕事体験ツアー
働く具体的なイメージが持てる仕事体験

LINE相談事業
ユキサキチャットの現場から

「バイト代を親にとられています」

「所持金が5,000円しかありません」

「ガスを止められました」

「節約のため、ほとんどごはんを食べていません」

若者ひとりひとりに合わせたカスタマイズ

ひとりひとりの状況に合わせてカスタマイズした食糧支援の例を紹介します。

基本セット

お米やパスタ、温めるだけで食べられるレトルト食品、1日に必要な栄養素を補う完全栄養食など。手軽さと栄養を考慮した基本のセットです。

療養セット

調理の手間が必要ないものをメインにゼリー、飲み物などを多めにして発送します。コロナ罹患中でも食べやすいことを念頭に置いたセットです。

お湯のみセット

お湯だけで調理できるレトルト食品を中心にしたセットです。電子レンジや炊飯器等の調理器具を持っていない方へ送ります。

ガス・電気が止められている時セット

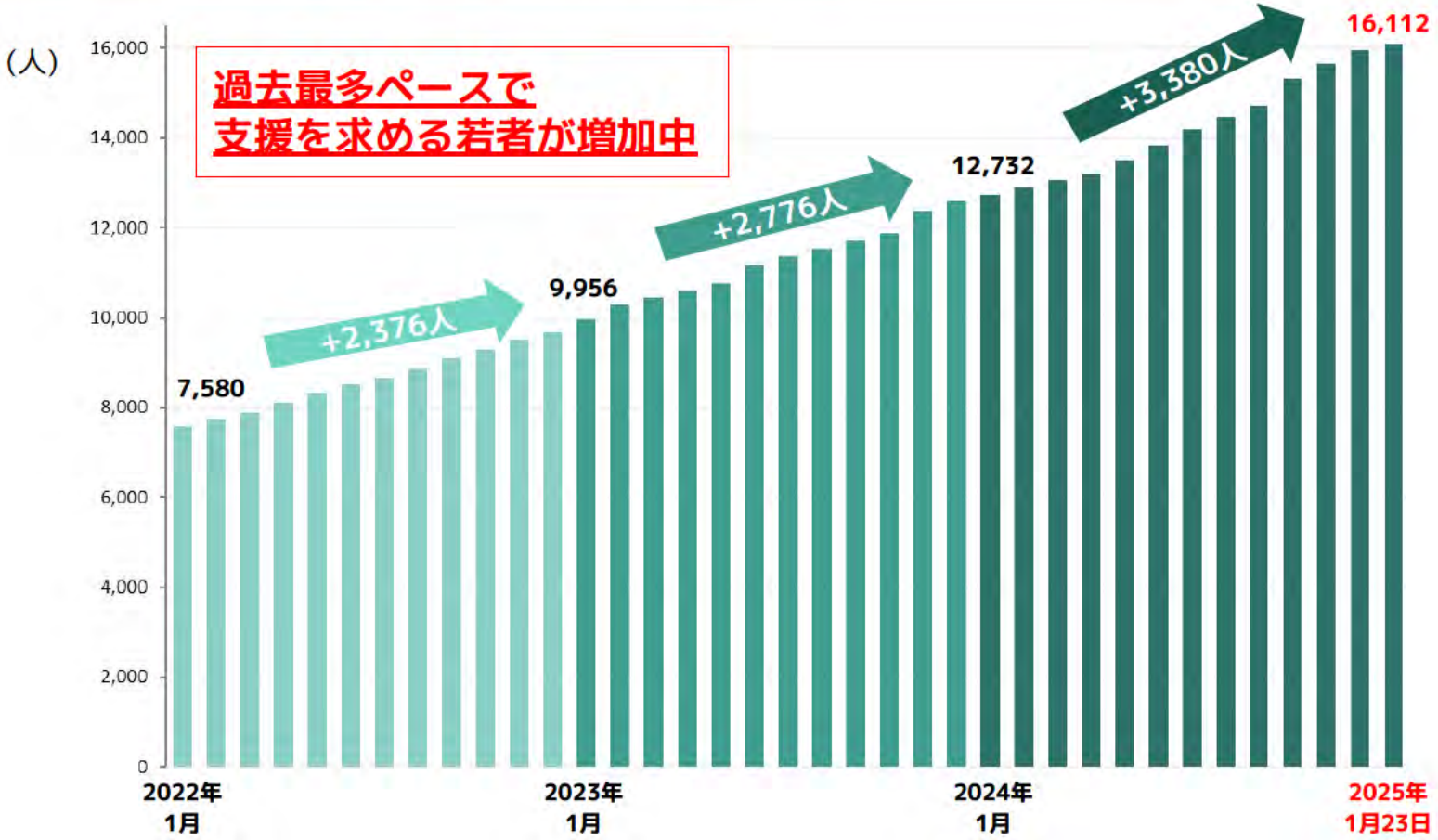
シリアルや常温で食べられるおかゆ、スープなどを中心にしたセットです。ガスや電気を止められている方へ送ります。

ユキサキチャット登録者数

16,112人

2020年3月時点では約７００人→約23倍増加

ユキサキチャットの登録者数推移

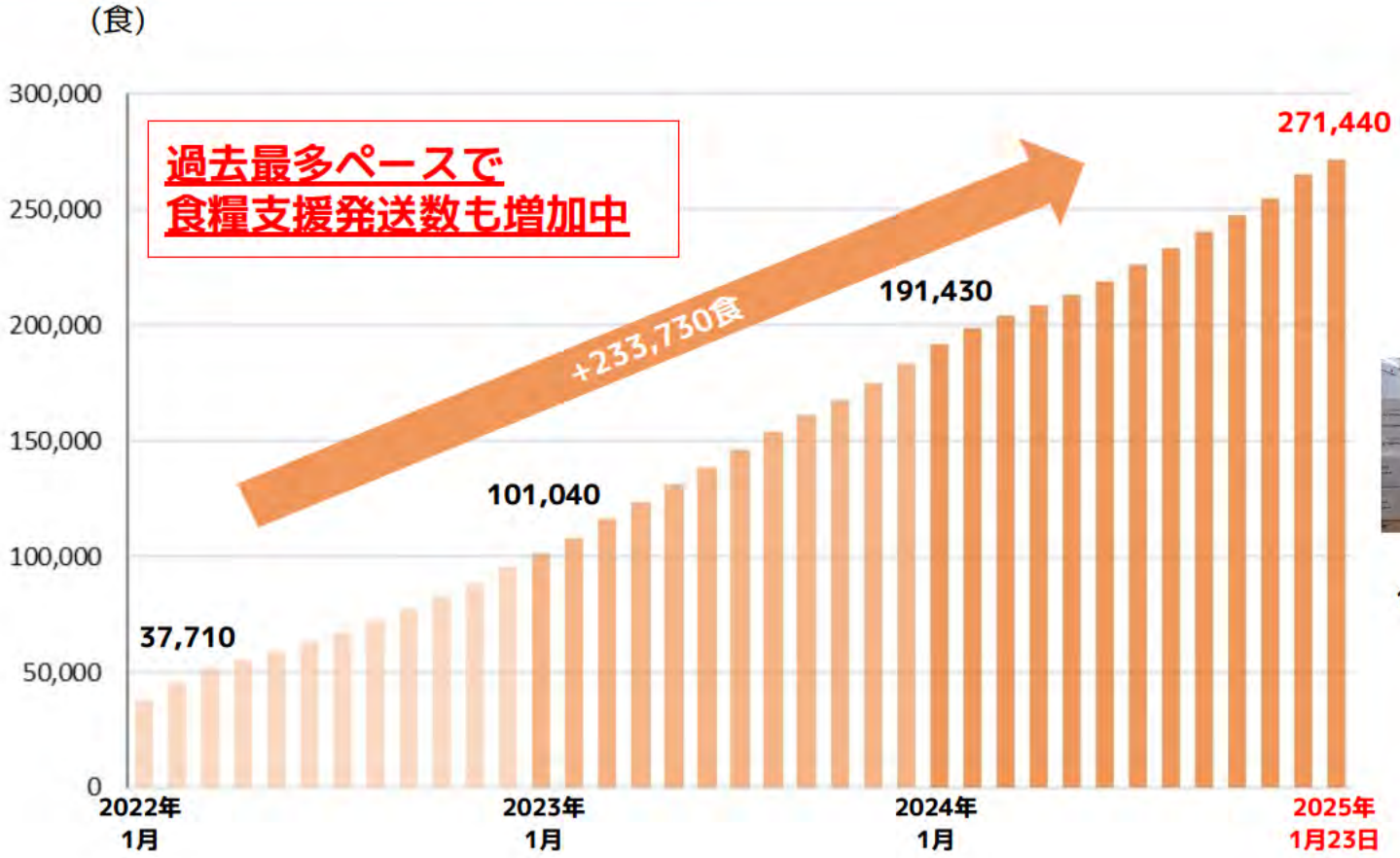


食糧支援数

271,440食

2020年3月時点では約4,980食→**約54倍増加**

食糧支援の発送食数推移



※2024年12月20日には
1日過去最多の4,320食を発送

現金給付額

9,418万円

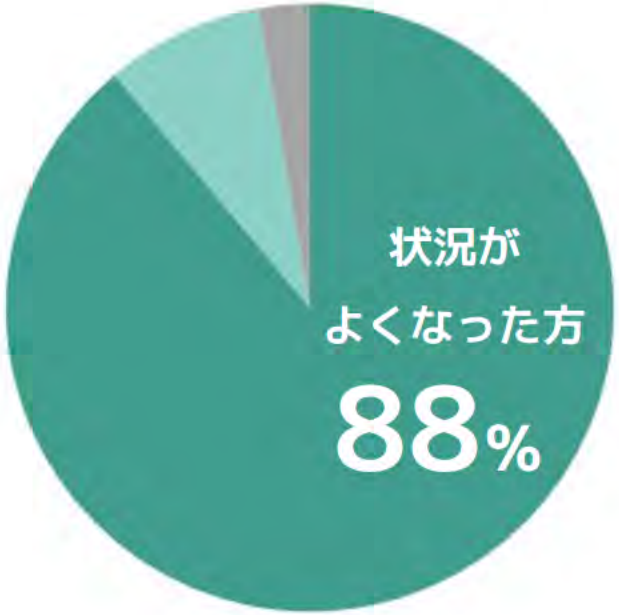
2020年3月時点では約351万円→**約27倍増加**

現金給付額の推移

※2024年12月は
2023年度以降の最多額を給付

給付の効果(給付終了後アンケートより)

・8割以上の方が、給付支援を通して生活状況がよくなったと回答



2022年2月1日～2024年7月26日までアンケートに回答した方(n＝369)

都市圏在住の若者のケース

加奈さん(仮名)

年齢:18歳

状況:通信制高校、親の虐待から逃れるためひとり暮らし。
アルバイトで生活費を捻出しつつ大学進学を目指している。

●困窮の背景

- 親からの虐待を背景に一時保護の経験あり。親を頼れる状況ではない。
- 生活費はアルバイト代で賄えているが、これから受験費用に不安がある。
- 「相談した人に『あなたの親は変わらない。あなたが変わるしかない。』と言われ絶望しました。」
  「担任の先生に相談したこともありますが、話を聞いてもらえませんでした。」

●支援のプロセス

現金給付と食糧支援を実施。
まずは目の前の不安を解消し
オンライン面談やチャット相談を
通して、地域の相談できる機関や
スクールカウンセラーを紹介

→

「初めて自分宛に宅配便が届いて、すごく嬉しかったです。お菓子にとても興奮しました！生理用品も節約していたので助かりました。支給いただいたお金で病院にようやく行けました。」

→

生活が安定し、次の1歩へ

「相談して、こんなに手厚くサポートしてくださったのは初めてでした。生活はだいぶ安定し、ゆとりを持てるようになりました。今は大学受験に向けて動いています。」

地方在住の若者のケース

由佳さん(仮名)

年齢:20代

状況:ひとり暮らし、貯金は0、働けておらず家賃や光熱費が来月払えない。
食事は1日2食で過ごしている。

●困窮の背景

- ひとり親・生活保護家庭出身。きょうだいが多く親を頼れない。
  (親から働くことや生活の援助へのプレッシャーを感じている様子。)
- 専門学校へ進学予定だったがバイト先の支払いトラブルでお金が工面できず辞退。
  トラブル以降、人に対する不信感など精神的なしんどさを抱えている。
- 生活保護に対する拒否感「世間の批判がすごい。私も批判されそうで嫌です。受給したくない。」

●支援のプロセス

現金給付と食糧支援を実施。
まずは目の前の不安を解消し
オンライン面談やチャット相談を
通して、家族との関わりや仕事の
ことを一緒に考えました。

→

「サポートを通して少し安心して
体調もメンタルも回復してきまし
た。仕事を探しながら貰ったお金
を大切に使わせてもらって生活頑
張っていこうと思います。」

→

正社員に内定

「とりあえず頑張ってみようと面接を
受けた結果、正社員に内定しました。
サポートのおかげです。4月から頑
張ってきます。」

繁華街に集まる若者の新しい居場所
大阪ミナミユースセンターの現場から

グリ下、孤立する若者が集まる大阪の繁華街

大阪有数の繁華街であるミナミのエリアには、虐待などを背景に家庭に居場所がなく孤立する若者がSNSを介してつながり集まります。
道頓堀の観光名所であるグリコの看板のたもとを「グリ下」と呼び、若者が集まり自然に生まれた居場所となっています。東京は「トー横」名古屋「ドン横」福岡「警固公園」など、全国各所の繁華街に、類似の居場所が存在しています。

大阪ミナミ「グリ下」・東京「トー横」、肩寄せる若者…「家にいたくない」ＳＮＳで集う

2021/11/29 20:19　新型コロナ　この記事をスクラップする

ＳＮＳ上で「グリ下」と呼ばれる場所に、互いに見知らぬ少年少女が集まる現象が起きている。大阪・道頓堀の観光名所であるグリコの看板のたもとだ。新型コロナウイルス禍で、飲食店や商業施設が時短営業や休業を余儀なくされていた今年の夏頃から、若者たちの「居場所」となっている。一方、未成年の飲酒やけんかなど、トラブルにつながるケースもあり、大阪府警は見回りの強化などに乗り出している。（中西千尋）

▸子どものコロナ重症例「多臓器炎症」の実態調査へ…全国２０００超の施設対象

▲読売新聞　2021年11月29日記事

「グリ下」に集まる若者たち　違法行為や性被害など危険な一方…　「ここが居場所」と複雑な思いも

▲関西テレビ特集　2022年01月07日放送

2022年8月、グリ下の近くにテントを立てはじめました

彼らの日常の延長線上に自分を気にかけてくれる人との出会いがあり、繁華街の中で「否定せず関わる」大人と出会える。そんな場所をつくりたいと2022年から週1回グリ下付近にテントを出し始めました。

フリーカフェの外観です。若者たちには「ピンクテント」の呼び方が定着していました。

フリーカフェではお弁当や飲み物、持ち帰りできるごはん、生理用品、避妊具などを用意しています。

関西テレビ 報道ランナーにて事業が取り上げられました

2023年6月スタート：ユースセンターの実践

ミナミのユース世代を取り巻く課題

背景

暴力やネグレクト
不登校、経済的困難など様々な事情により家や学校に居場所がない

繁華街が居場所に

若者にとってはやっとできたとても大切な居場所であることも。

繁華街にいる若者におきやすいトラブル

- 犯罪に巻き込まれる
- 債務を重ねる
- 性的被害など（望まない妊娠、性病）
- 若者グループ内でのトラブル

課題が複数化・深刻化

ユースセンターを起点に繁華街にセーフティネットを

ユースセンターが繁華街での新しい居場所に

2023年6月開設

- **エネルギーをためられる**
- **自分の意見が尊重される**
- **自立に向けて一緒に考えてくれる人とつながる**

繁華街にセーフティネットをつくる

- 犯罪に巻き込まれても相談できる
- 債務整理のため外部機関に相談できる
- 福祉制度を頼れる/仕事を探せる
- 話し合える/関係を結び直せる
- 医療機関を頼れる/回復に向かう

ユースセンターが持つ3つの機能

ミナミのユースセンターで得られるもの

**エネルギーを
ためられる**
（食べる・仮眠できる・相談できる）

おうちで得られるかもしれなかったものをチャージ
✓あたたかいごはん
✓仮眠（出勤前に仮眠するなど）
✓クリスマスなどの季節的な行事やゲーム/音楽など

自分の意見が尊重される

**「自己決定」の経験を得る/
本人がもともと持つ力を奪わない関わり**
✓ユースセンターの運営・備品に対する意見を言える
✓自分の意見や声が反映されている実感を持つ
✓一緒に企画をつくったり、掲示物をつくる

**自立に向けて一緒に
考えてくれる人とつながる**

ひとりひとりの望む状態を聞く
✓個別相談や同行支援：スタッフと生活について話しあう/一緒に病院や自治体に行き、他の機関とつながる
✓助産師や自治体職員など専門家が来訪し相談対応
✓仕事体験ツアーなど若者の目標に合わせた機会提供

ユースセンター開所回数

128回

※2023年6月～2025年1月までの実績

ユースセンター利用者数

6,485人

※2023年6月～2025年1月までの実績

ユースセンターの非開催日にしていることの例

※本人の安全を守るため・個人情報保護のため、個人が特定されないようによくあるケースを組み合わせ加工しています。

（こんなきれいに進むことは現実にはありませんが…）

STEP1:ユースセンターでの関係性構築→緊急対応

①ユースセンターへ
グリ下でのクチコミでセンターを知り来訪。ごはんを食べたり、雑談で関係性を築く

→

②性関係の緊急対応
緊急避妊の必要性があり、インスタのDMで連絡。連携している産婦人科へ

→

③追加面談
生活状況や他の困り事をヒアリング。経済的困窮や住居が安定していないことを確認

STEP2:生活の安定と心身の健康維持に向けて徐々につなぎ先を増やしていく

→

④住居支援につなぐ
安定した住居を持てるように他機関や保証会社と連携して住居の確保をする。

→

⑤行政支援につなぐ
生活保護や住宅確保支援金などの既存制度の申請をスタッフと共に行う

→

⑥金銭管理のサポート
支払い方法を確認したり、必要なお金を計算したり。もらえる給付金の申請なども。

→

⑦医療支援につなぐ
精神疾患や依存症も見られたことから、医療機関につなげ通院をうながす

大阪市・大阪府との連携/調査も実施し、議論の土台に。

大阪市が開催するグリ下の課題に対応するための府市連携・官民連携の「グリ下会議」に出席し、月1回のペースで会合を重ねています。また、ユースセンターでグリ下に集まる若者たちにアンケートを実施し、彼らの状況やニーズを把握しながら、大阪市とともに具体的な支援策を検討しています。

グリ下実務者会議への出席

大阪市が"グリ下"に集う子どもたちへの支援策を検討へ　NPO法人が若者らにアンケート実施

大阪　2024/09/06 18:15

最新ニュース

大阪市との連携協定締結
（MBSニュース 2024年9月6日）